

平成
30年度

地産地消等優良活動表彰

地産地消は、地域の生産者と消費者を結びつけ、食料自給率の向上を図る上で重要であるほか、直売や加工などの取組を通じて農林漁業の6次産業化による地域の活性化にもつながるものとして、一層の推進が求められています。また、国産農林水産物の魅力を広く発信することを通じ、消費者に日本の食や農林漁業への理解を促し、国産農林水産物の消費拡大を推進していくことも重要です。

そこで、全国各地のそれぞれの立地条件を活かした創意工夫のある様々な地産地消及び国産農林水産物・食品の消費拡大を推進する取組・活動を募集し、その成果や持続性、地域への寄与等について優れたものを選考の上、表彰しています。表彰された取組内容を広く紹介することで、自主的な取組を促進し、更なる地産地消や国産農林水産物の消費拡大の推進を目的に実施します。

表彰部門

生産部門

農林水産物を生産する
団体・企業等

教育関係部門

保育園、幼小中高校、大学、
学校給食会等

食品産業部門

農林水産物を加工・流通・
販売する団体・企業等

個人部門

地産地消を推進する個人

表彰の種類

農林水産
大臣賞

4点以内

文部科学
大臣賞

1点以内

農林水産省
食料産業
局長賞

7点以内

全国地産地消
推進協議会
会長賞

数点

主 催

農林水産省・全国地産地消推進協議会

地産地消等優良活動表彰の審査結果について

選定の概要

- (1)応募期間 : 平成 30 年 7 月 13 日～ 8 月 24 日
- (2)応募者数 : 123 件(4 部門合計)
- (3)審 査 : 審査委員による書類審査及び審査委員会、現地審査を経て、受賞者を決定。
- (4)審査基準 : 主に取組の持続性、農林水産業の振興への貢献、安定的な生産・供給、利用促進による消費拡大、理解増進について評価。

審査委員名簿 (五十音順・敬称略)

音羽 和紀	オトワレストラン オーナーシェフ	野見山 敏雄	東京農工大学大学院農学研究院 教授
勝本 吉伸	株式会社シンセニアン 代表取締役	菱山 まり子	八王子市農業協同組合 生産者
田中 延子	京都府立大学京都和食文化研究センター 客員教授	山際 博美	株式会社山際食彩工房 代表取締役
中村 貴子	京都府立大学生命環境科学研究科 准教授		

部門(応募件数)	賞	活動主体の名称
生産部門 (34 件)	農林水産大臣賞	カタシモワインフード株式会社 (大阪府柏原市)
	農林水産省食料産業局長賞	トヨタファーム (愛知県豊田市) 農業生産法人 株式会社いえじま家族 (沖縄県国頭郡伊江村)
	全国地産地消推進協議会会長賞	有限会社 岩谷水産 (和歌山県東牟婁郡串本町)
食品産業部門 (49 件)	農林水産大臣賞	協同組合 青森県黒にんにく協会 (青森県上北郡おいらせ町) 株式会社 恵那川上屋 (岐阜県恵那市)
	農林水産省食料産業局長賞	小樽商工会議所 (北海道小樽市) 株式会社 オール・ケッチャーノ(山形県鶴岡市)
	文部科学大臣賞	和歌山県立神島高等学校 (和歌山県田辺市)
教育関係部門 (33 件)	農林水産省食料産業局長賞	学校法人 八紘学園 北海道農業専門学校 (北海道札幌市) 岐阜県立恵那南高等学校 (岐阜県恵那市)
	農林水産大臣賞	長田 勇久 (愛知県碧南市)
個人部門 (7 件)	農林水産省食料産業局長賞	澤岬 カズ子 (沖縄県中頭郡読谷村)

平成30年度
農林水産
大臣賞
生産部門

カタシモワインフード株式会社

大阪ぶどうを地域全体で盛りあげる 100年続くワイナリー

大阪府

大阪の特産品『デラウェア』はワインには合わないと言われてきましたが、徹底的に研究して大ヒット商品『たこシャン』を開発しました。

また、大阪という都市の中でぶどう畑の残る美しい景観を守るために、耕作放棄前に高齢のぶどう農業者から畑を借り受け、ボランティア農園として都市住民や企業との連携を図る取組みを進めています。

当社独自のイベントとしてぶどう畑でのバーベキュー、花見、栽培体験ツアー、芸術祭、音楽コンサート、キャンドルナイト、古民家活用等の地域一丸となった街歩きイベントを実施することで、多方面からの大阪ぶどう・ワインのPRへと繋げています。



ワイナリーの外観



大ヒット商品『たこシャン』



ぶどう畑の中の野菜マルシェ

平成30年度
農林水産
大臣賞
食品産業部門

協同組合 青森県黒にんにく協会

青森県

黒にんにくで風を起こせ！
にんにく産地の農家所得向上！

平成27年7月に「青森の黒にんにく」として地域団体商標を取得し、世界黒にんにくサミットの開催等による黒にんにくのブランド化に取り組み、業界をリードしています。

地域内で生産すること、かつ、調理せずそのまま食べられる商品を提供することと消費の拡大を狙ったマーケティングにより素材供給県から脱却し、農家の所得向上に大きく貢献しています。

当初、地産地消に始まった取組は、今日では全国へ、そして、海外25カ国へ展開する規模となっています。



世界黒にんにくサミット in 青森



各種黒にんにく製品



黒にんにく料理グランプリ



平成30年度
農林水産
大臣賞
食品産業部門

さらに地元の高校と連携し、地域社会で即戦力となる人材の育成を視野に栗の栽培から加工・販売までを3年かけて学ぶ機会を提供しています。



惠那峡本社